

参加者は約50名で、偕行合唱団（和田代表）も加わり、盛大に斎行されました。

なお、昨年9月初旬、慰霊祭を執行する埼玉県特攻隊戦没者慰霊顕彰会が新たに設立され、左記の69会会員が役員に就任しました。

会長・柳澤壽昭、副会長・今野茂雄、渡邊榮樹、理事・神保明生、正本慎亮、森充、広田洋一、吉川佐賢、和田明範
同期生訃報

（逝去を悼み謹んでご冥福を祈ります。）

- ・牧野邦彦様 昨年11月21日
- ・吉田守様 昨年11月12日
- ・橋本和夫様 昨年6月29日
- ・吉本靖夫様 昨年6月2日
- ・杉田守弘様 一昨年12月20日
- ・桐淵貞訓様 一昨年11月25日

最後に
新年における皆様のご多幸と益々の発展をお祈りいたします。



旧弘前偕行社で

青森県偕行会総会

青森県偕行会は、秋分の日を翌日に控えた9月21日、旧弘前偕行社小会議室に

おいて令和6年度の総会を開催した。総会は9月下旬の土曜日開催を慣例としているところ、東北方面隊の記念日行事とも重なり参加者の減少となった。

今年は大きな報告・審議事項を二つ抱えていた。

一つは、「旧弘前偕行社の弘前市への移管について」、二つ目は、「偕行会主催防衛講話の開催について」である。

総会は、国歌斉唱の後、会長挨拶、参加者の自己紹介と続き議事の審議に入った。まず、「旧弘前偕行社の弘前市への移管について」、弘前厚生学院監事でもある会長から移管の経緯と、移管後の管



理運営などについて報告された。昨年度の懸案事項であった弘前厚生学院が所有する国の重要文化財「旧弘前偕行社」と市指定の保存緑地「遑止園」を、弘前市で取得してもらう経緯が報告された。建物は無償で、土地は有償で譲り渡す細部が述べられた。土地は約5420坪で坪約7万円、総額4億1431万円であること。その金額は、土地評価額の約半分であるが、厚生学院の閉校に伴う経費、校舎解体費用、借金返済を合計したものであること。学院が解散することから経費が余っても手元に残らず、全て上納しなければならなかったためであったこと。弘前市は、9月13日に「偕行社の土地取得案」を定例市議会に追加提案し、同月27日に可決され、10月中に仮契約が成されることなどである。その市の計画は事前に地元の陸奥新報に8月24日報道され、市民の理解、市議会議員の理解が得られていた結果と思われる。

「旧弘前偕行社」の弘前市取得にあたっては、市議会において偕行会員でもある野村議員が、財団法人偕行社の紹介と同社からの多大な寄付と会員多数の寄付があったことから、「市として取得すべきである」との訴えもあった。その寄付は、平成26年に今は亡き伊藤前会長の、偕行社への依頼から始まった。しかしながら、公益財団法人としては、学校法人に寄付する方策は、細い針に糸を通す位に難し

いとされ、学校法人厚生学院が「旧弘前偕行社」を弘前市に寄付し、弘前市の所有となれば解決すると打診もされ努めたが、当時の同学院に一蹴された経緯があった。それが約8年の時の流れにより実現したのである。誠に喜ばしいことと報告された。

二つ目の「偕行会主催防衛講話の開催について」は、8月末に元西方総監本松敬史氏より打診があり、9月2日には9師団副師団長岡部将補からの電話により、概要を理解した。4日には本松氏から「講師は元9師団長亀山慎二氏、時期は12月上旬、主催・偕行会、後援・公益財団法人陸修偕行社、協賛・青森駐屯地修親会、公益社団法人隊友会、青森県隊友会、自衛隊家族会、青森県家族会」と



令和6年9月21日 青森県偕行会総会

することと連絡を受けた。早速会場確保に電話したものの、ホテル青森やアップルパレスなどの馴染みの会場は今年一杯満杯とのこと。試しに保護司会等の福祉関連施設の「県民福祉プラザ」に問い合わせると、12月5日(木)ならば空いているとのこと、会場の収容人員は350名であり、青森市の中心部に位置するのを確保して、「防衛講話の開催調整案」を作成し、県隊友会長及び県家族会長にメールで協賛を依頼し了承を得た。9日(月)に岡部副師団長に文書で同案を届けたところ、メールで青森駐屯地修親会の担当者と同駐屯地総務科長鎌田3佐であると連絡があり、同氏とメールで細部を調整し、講演会の案内を作成した。その案内文で審議したところ、講演会の開催は準備から、実施、懇親会まで大変な事であり、組織を編成して対応する必要があるとの提案があり、偕行会員は県隊友会長でもある堀内会員、75期の末永会員、田中会員が青森市在住であり、隊友会は東青支部長でもある外崎会員始め支部の会員、家族会も同様青森市内の会員の協力を期待し、修親会も期待できると了承を得た。

その他、昨年の事業報告、今年度の活動方針の審議などを行い、引き続き懇親会は9名の出席となった。終わりに全員で会場内で写真を撮り、「海ゆかば」を合唱した。来春の花見での再会を期して旧弘前偕行社を後にした。